

A Journey into Darkness

- Astronomy 1990年7月号より -

室伏 礼子 (訳)

米国の天文雑誌、Astronomy 1990年7月号には、A Journey into Darknessと題した、本年7月11日の日食関連の記事が掲載され、人々の熱狂ぶりや、気象情報、主な観測地の現地状況、ツアー情報等が紹介されています。ここでは、その記事の中から、多くの方々が観測地として予定しているハワイ島とカリフォルニア半島の現地状況の部分を中心に内容をまとめてみました。

1. ハワイ島の状況

ハワイ島の観光局はトライアスロンの大会による大量の観光客の扱いに慣れているとはいえ「今回の日食はそれ以上のインパクトをもたらす」と予想している。日食を見るためにこの島にやって来る人々は10,000人から30,000人と予想されており、それだけで通常の旅行者のピークといわれる7月の一般観光客の数を上回る。

1) 航空機

ハワイ島の場合、この島までの航空便数が観測者の数を制限する要因のひとつとなるであろう。ハワイ諸島以外の地域から来る場合は、皆オアフ島のホノルル経由であり、ホノルルからの便数はヒロ、コナ合わせて通常では一日20便から25便である。しかし、需要があれば増便される予定である。

2) 宿泊地

キャンプ場は狭い上に水が不足しているため余り勧められない。ハワイ島のホテルの部屋数は合計8,800、その内の84%が天候がよいとされるコナにある。ホテル側は既に予約で満杯といているが、それは旅行社が押さえているためであり、旅行社から個人に又売りされることもある。又、日食の時期の予約には多額のデポジットが要求されていることから、旅行社が現金を用意することが出来ず、予約してある部屋を手放すこともあろう。なお、コナのホテルが点在するKailua-Konaの南側の海岸線からでは、日食の際、山(HualalaiやMauna Loa)に邪魔され太陽が見えないことがある。WaikaloaやKohala Coast等の北側の見通しのよい場所までの移動が必要である。

3) レンタカー

通常、ハワイ島には旅行者数のピーク時にも対応できるよう4,000台のレンタカーがあり、さらに多くの車がレンタカー用に島に運び込まれる予定である。しかしこれらのレンタカーのうち多くが旅行社によって予約されており、ホテルの部屋と抱合せで予約が受け付けられる予定である

4) 閉鎖される道路

日食の日の前後には下記の道路が通行止めとなる。

① マウナケア

高さ14,000フィートのこの休火山の頂上に通じる道路は日食の2日前より閉鎖される。9,000フィートの地点には、この山にある天文台の職員住宅とOnizuka Interpretive Centerがあるが、ここも一般に対しては閉鎖され、テレビのライブ放映の取材のみが許される。頂上は日食の翌日、または翌々日には開放されるが、頂上までバスを使うことは出来ず各自で四輪駆動の車を調達せねばならぬ。

② マウナロア

この山の11,000フィートの地点にある太陽観測所と気象観測所への道路も閉鎖される。この他にも、ヒロとWaimeaをつなぐSaddle Roadも閉鎖されるか一方通行となる可能性がある。

”7月11日は天がもたらす厄日”といわれており、日食直前には島内の交通はメチャメチャになるだろうと予想されている。「皆、自分がその時にいる場所に留まって見ざるを得ない状況となるだろう。道路の脇とか、ホテルの部屋からとか、空港の敷地内とか、はたまた、着陸の順番待ちのため旋回する飛行機の中からとか。」

2. バハ (カリフォルニア半島)

1) 宿泊施設

バハ南部にあるホテルの部屋数は合計2,000、日食までに更に2,000室増える予定である。総て予約済みであるが、旅行社を通してなら予約が可能である。個人の自宅も開放される予定であるが、売り手市場となるため値段は法外なものとなろう。

バハは、キャンプ場やRV(recreational vehicle)用の駐車場がよく整備されており、主に冬季用とはいえ、日食の際には満杯となろう。

2) 自動車で移動する際の注意

自動車で半島を南下しながら宿泊場所を探そうとする人もいるようだが、湿度が高く華氏100度にもなる気温の中、荒れたうんざりするような道を3日も4日も運転することになるのだから、これは危険である。

バハで車を運転する際の一般的な注意は次の通りである。

夜は車の運転をしない、決められた場所以外ではキャンプしない、道路から離れた場所に車を止めて寝るようなことはしない、一人で行動しない。必需品としては、①多量の水、②日除けと日焼け止め、③じょうご（メキシコのガソリンスタンドのノズルは、非常に太く、米国の標準仕様の自動車には合わない。）バハでは、ガソリンスタンド間の最長距離は120マイル。常にガソリンを満タンにしておくよう、注意しておかねばならない。

メキシコ政府は自動車で旅行をする人のために、Green Angelと呼ばれる道路サービスを行っており、主なハイウェイを一日二回パトロールしている。日食時にはこのパトロールが增強される予定である。

3) その他の問題点

ギリギリになってから、沢山の日食観測者が、カメラや望遠鏡を持ってメキシコの税関を通ることになる。バハにある300本余りの滑走路めがけ多くの軽飛行機が飛んで来るだろう。メキシコ政府としてはまだこれらの問題に対し対応策を定めていない。

バハには、メキシコ本土からフェリーで渡ることも出来るが、メキシコ政府は運賃が5倍にも跳ね上がる例もあるとして、余り勧めてはいない。そのうえフェリーには間際になってたくさんの車が殺到するだろうから。

メキシコ観光局はメキシコ政府を支援し、日食時に起こり得る様々な問題に対応する予定である。しかし、どんな交通手段を取ろうとも、日にちにゆとりを持って観測地に到着しておくべきだ。7月11日には皆既帯近くのバハの道路は大渋滞になると予想される。

3. その他の観測地

大混雑が予想されるハワイ島やバハを避けた場合、次にあげる場所が観測地の候補となる。

1) 洋上観測

2) メキシコ西岸Mazatlan 地区

人口25万人（La Pazの2倍）のこの地区は旅行者用の施設は整い、南側のTuzpan のそば

を皆既の中心線が通っている。この近辺では、7月晴天となるのは、気象統計上ではせいぜい月に10日ではあるが、海風により雲が内陸に押しとどめられ、晴天となる率が高いといわれている。内陸では曇りがちで、太陽と月のピラミッドのある、Teotihuacanでは、写真にはうって付けの構図が取れるにも関わらず、晴天率は僅か10%である。皆既帯が山岳地帯を通る間にも、Guadalajaraの南西、Puebalaの南西、PuebalaとOaxacaの間の谷間等所々晴天率がよい場所があるが、移動できるか否かが問題となってくる。皆既帯が中南米にはいると、天候が悪い、日没となってしまう、等の理由により観測に適した場所はない。

3) マウイ島

この島の南端の村、Kaupoからは約50秒間皆既食を観測できる。しかし、この村に行くためには4輪駆動の自動車を借りなければならない。この島にある、Haleakala火山の頂上では皆既とはならず、太陽は5.5度の弧を残す。コロナ見えるかもしれないが、対岸のハワイ島のとは比べものにならないだろう。

4. ツアー情報

この記事の中では、また、米国及びカナダの日食ツアーの情報が掲載されています。

1) 陸上観測

① バハ

全部で9つのツアーが紹介されています。どれも、7月7日～9日の出発で一週間から10日の日程ですが、中には日食の日の朝、Los Cabos Airportに着く、たった2日間のツアーもあります。観測地は、La Paz, Los Cabos, Cabo San Lucas, San Jose del Cabo等。費用は航空運賃を含むもの含まないものいろいろですが、航空運賃込みでホテル泊で平均1,500米国ドル位、キャンプで700米国ドル位です。カリフォルニアの天文施設見学を旅程に組み入れているツアーもあります。

② ハワイ島

紹介されているツアーは4つ。宿泊ホテルとレンタカーとハワイ諸島内の航空便を組み合わせたもの、5日間パックツアーと形態はいろいろですが、費用は5日間のツアーで平均1,800米国ドル程。

③ その他

その他にも、メキシコ本土へのツアーが3つ(内、2つの観測場所はMazatlan)、コスタリカへのツアーが1つ(観測地はSanta Rosa National Park)、ブラジル行きが1つ(Tefeから観測)紹介されています。

2) 洋上観測

① メキシコ沿岸

紹介されているのは9隻。 日程は明記されているものでどれも約1週間。 費用は安いもので出航地までの往復の航空運賃込みで、1,395米ドル、高いものは往復の航空運賃を含まず、2,400米ドル。 UCLA主催のもの、講師付きのもの、様々です。

② ハワイ沖

3隻紹介されています。 費用は出航地までの運賃抜きで、1,125～3,895米ドル。

3) ヨットのチャーター

少人数の観測グループ向けに、観測用にヨットをチャーターしてくれる会社が3社紹介されています。 2～10人程で1隻チャーターすることが出来、費用は1人一日120～350米ドル。クルーと食事付き。

以上、これまで日食情報に記載されていなかった情報をまとめてみました。 どの情報もアメリカやカナダ居住者向けですが、個人で動き回ろうと計画されている方などの参考になれば幸いです。 なお、この記事は次のような文章で締めくくられています。

5. 見に行く価値があるのか？

日食があるたびに人々は問う。「たった数分間のために、そんなにお金と手間暇をかける価値があるのか」と。「部分色を見たことがあるがそれと同じものではないのか」と。

「否！」 皆既日食を見るまでは、それがどんなものであるか、太陽が完全に空から消えてしまうということがどんなに劇的な衝撃を与えるものであるか、想像し得ないだろう。 それはたった数分間の出来事である。 しかし、もう一度体験してみたいと常に願うような数分間なのだ。 観測場所も交通手段もどれがベストだとは断定できないが、旅行社に当たってみるなど、トライしてみるべきだ。 このチャンスを逃したら次までずっと待たねばならない。